

令和4（2022）年度

学習ナビ

（学習の手引き）



丹波篠山市立西紀中学校

授業科目名	国語	対象	1年生
担当教員	北村 啓	受講教室	1A教室
週当たり時数	4 (年間140時間)		
到達目標			
(1) 国語に関心をもち、進んで自己の学びに活かそうとする (2) 言語について正しく理解し、コミュニケーションのための技能を身につけている (3) 課題解決するために、内容を理解し、自分の考えをまとめて話したり、適切に文章に書いたりすることができる			
授業方法	講義、話し合い、表現活動		
○講義：授業者が国語科の見方、考え方について、板書、スライドショー、映像などを用いて説明する ○話し合い、表現活動：自分の考えをまとめたり、話し合い共有したりすることで考えを深める。作文やスピーチ、作品づくりなどの表現活動をおこなう。			
授業計画・内容			
1学期	2学期	3学期	
<ul style="list-style-type: none"> ○風の五線譜 ○話し方はどうかな ○音声の働きや仕組み ○詩の心—発見の喜び ○文法とは・言葉の単位 ○活字と書き文字・画数・筆順 ○飛べかもめ ○さんちき ○接続する語句・指示する語句 ○文の成分・連文節 ○音読み・訓読み ○碑 ○書写(硬筆の楷書) 	<ul style="list-style-type: none"> ○移り行く浦島太郎の物語 ○伊曾保物語 ○竹取物語 ○矛盾 ○単語の分類 ○名詞 ○連体詞・副詞・接続詞・感動詞 ○漢字の部首 ○方言と共通語 ○語の意味と文脈・多義語 ○オオカミを見る目 ○私のタンポポ研究 ○根拠を明確にして書こう ○中心を明確にして話そう 	<ul style="list-style-type: none"> ○書写(毛筆の楷書・行書) ○少年の日の思い出 ○風を受けて走れ ○トロッコ ○月夜の浜辺 ○わたしの中にも ○他教科で学ぶ漢字 ○漢字の成り立ち 	
休業中	<ul style="list-style-type: none"> ・文法ワーク、国語のワーク ・読書感想文、人権作文 		
みなさんへのメッセージ	国語は、すべての学びの基本です。どの教科も日本語(国語)の力が必要です。そして、国語の力＝「読む・話す・聞く・書く・言語の知識」の力です。国語の力がつくと、「学ぶ力が向上した」ことになります。他の教科やこれからの多くの学びに役立つよう、進んで取り組んでいきましょう。		
評価方法			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト(5回) ・書写作品 ・小テスト(漢字、文法) ・暗唱テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト(5回) ・朗読テスト、小作文 ・読書感想文 ・話し合い活動、スピーチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での意見発表や態度 ・漢字ノート、自主学習ノート ・ふりかえりの内容 ・提出物への取り組み 	
授業・評価についての留意事項	国語の力は生活の中で、多くの人と『言葉』でつながっていける力のことを言います。そのために、多くの人に伝わる正しい言葉を習得し、使えることが必要です。積極的に、多くの文章・語句に触れ、自分の考えをもち、その意見や考えを書いたり、話したり、交流できるように学んでいきます。		
使用教材	教科書(東京書籍)、つまづかない文法ワーク、国語の学習(ワーク)、国語活用資料集、単元別漢字ノート、タブレットパソコン		

授業科目名	社会	対象	1年生
担当教員	細見 周平	受講教室	1A教室
週当たり時数	3 (年間105時間)		
到達目標			
<p>(1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>			
授業方法	講義、演習		
<p>○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する。</p> <p>○演習：地形図や年表、図表をもとに、その現象の意味を考察する。</p>			
授業計画・内容 (一部変更はあり)			
1学期	2学期	3学期	
<p>○地理分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の姿 ・日本の姿 ・人々の生活と環境 <p>○歴史分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人類の始まりと文明 ・日本列島の人々と国家の形成 	<p>○歴史分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代国家の形成 <p>○地理分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア州 ・ヨーロッパ州 ・アフリカ州 ・北アメリカ州 ・南アメリカ州 	<p>○地理分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オセアニア州 <p>○歴史分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉幕府の成立 ・室町幕府と下剋上 <p>○地理分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の調査 ・日本の地域的特色 	
休業中	・ワーク (基礎基本の定着)、レポート課題		
みなさんへのメッセージ	1年生では、地理分野・歴史分野を学習します。1年生の社会科で最も大切なことは、社会科に興味をもつことです。世界の国々や歴史上のできごとに対して、「なぜ? どうして?」という視点を持ち、授業を受けていきましょう。		
評価方法 (それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する)			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート (振り返り) ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・ワークシート (振り返り) ・レポート課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト ・発表、授業の様子、提出物 ・ワークシート (予習・メモ) ・小テスト 	
授業・評価についての留意事項	次の授業に向けて予習課題に取り組み、目標や課題意識を持って授業に臨みましょう。また、授業中に出された課題などは確実に言い、提出しましょう。最初から答えを見たり、友だちに見せてもらったりするのではなく、自分の力で取り組むことで力が付きます。テストだけでなく、日々の授業プリントにも丁寧に取り組みましょう。		
使用教材	教科書【地理】(帝国書院)【歴史】(日本文教出版)、地図帳(帝国書院) 社会の自主学习【地理1】【歴史1】(新学社)、授業プリント、ファイル		

授業科目名	数学	対象	1年生
担当教員	中野美穂・山田啓人	受講教室	1A教室・学習室A
週当たり時数	4（年間140時間）		
到達目標			
<p>(1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。</p> <p>(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。</p>			
授業方法	講義、演習		
<p>○講義：授業者が板書、映像など様々な資料を用いて説明する</p> <p>○演習：ワークなどを用い、演習問題に取り組む。</p>			
授業計画・内容（一部変更の可能性あり）			
1学期	2学期	3学期	
<p>○正の数・負の数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正の数・負の数 ・正負の数の計算 ・素数の積で表すこと <p>○文字の式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を使った式 ・文字式の計算 <p>○方程式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方程式 ・方程式の利用 	<p>○変化と対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関数 ・比例 ・反比例 ・比例・反比例の利用 <p>○平面図形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直線図形と移動 ・基本の作図 ・円とおうぎ形 	<p>○空間図形</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立体と空間図形 ・立体の表面積と体積 <p>○資料の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の傾向をとらえ ・説明しよう ・累積度数 ・データにもとづく確率 <p>○一年間の総復習</p>	
休業中	・ワーク⇒基礎基本の定着		
みなさんへのメッセージ	<p>計算問題は、量をたくさんこなし、自分のつまずきポイントを知り、ケアレスミスをなくしていきましょう。図形や関数などの総合問題は、まず問題文の意味を理解し、今まで学んだ事柄をどのように用いるか考え、じっくり粘り強く解答を導いていきましょう。。</p>		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、ワーク ・プリント ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート、ワーク ・プリント ・小テスト ・定期テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表、授業中の様子 ・ノート・ワーク ・プリント ・定期テスト 	
授業・評価についての留意事項	<p>目標や課題意識を持って授業に臨みましょう。その日やった問題はその日のうちにマスターしましょう。わからないときは、どこがわからないのかということを考えましょう。出された宿題は必ずしましょう。また、宿題だけではなくワークなども活用しましょう。</p>		
使用教材	<p>未来へ広がる数学（啓林館）、よくわかる数学の学習1（明治図書）、ダッシュ80（浜島書店）スパイラル式！数学のパターン演習（新学社）</p> <p>ノート（各自で用意）、プリント（授業で配布）</p>		

授業科目名	理科	対象	1年生
担当教員	山本 孝一	受講教室	理科室・1A教室
週当たり時数	3（年間105時間）		
到達目標			
<p>(1) 自然現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につける。</p> <p>(3) 自然現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする力を身につける。</p>			
授業方法	講義、演習		
<p>○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する</p> <p>○演習：自然現象の再現実験及び観察を行う</p>			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1学期	2学期	3学期	
<p>○オリエンテーション</p> <p>○植物や動物のくらしとなかま</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な生物の観察 ・植物の特徴と分類 ・動物の特徴と分類 <p>○身のまわりの物質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな物質とその性質 <p>○自由研究について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマの選び方、レポートの作成について 	<p>○身の回りの物質</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な実験器具の使い方 ・いろいろな気体とその性質 ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化 <p>○光・音・力による現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光による現象 ・音による現象 	<p>○光・音・力による現象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・力による現象 <p>○活きている地球</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な大地 ・ゆれる大地（地震） ・火をふく大地（火山） ・語る大地（地層） ・自然のめぐみと自然災害 	
休業中	・ワーク（夏、冬）→基礎基本の定着 ・自由研究（夏）→科学的思考力の育成		
みなさんへのメッセージ	自然科学とは何か？私たちの身の回りで起きる現象の理由を考えることです。中学校の間には4つの領域を1つの教科として学習します。それぞれの視点で得られた知見をもとに、自然現象について考えていきましょう。		
評価方法（すべて1/3ずつ評価し、最終的な評価を決定する）			
自然事象への知識、実験技能	科学的思考力、表現力	主体的に学習に取り組む力	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（5回） ・小テスト（不定期） ・実験レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験レポート ・ディスカッション課題 ・定期テスト（5回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での意見発表 ・授業でのノート記入 ・定期テスト（5回） 	
授業・評価についての留意事項	授業では毎回予習課題を設け、次回の授業で確認を行う。また、毎時間の振り返りを行う。単元終了ごとにワークや理科ノート、ファイルを提出する。これも評価（主体的に学習に取り組む力）に加える。欠席者は授業者に必ず授業の内容を確認すること。		
使用教材	未来へ広がるサイエンス（啓林館）、授業プリント、理科の自主学习（新学社）ノート（各自で用意）、ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	音楽	対象	1年生
担当教員	川崎 里佳	受講教室	音楽室
週当たり時数	1 (年間35時間)		
到達目標			
<p>(1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聞けるようになる。</p> <p>(3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>			
授業方法	講義、実技、鑑賞、グループワーク		
<p>○講義：授業者が板書、スライドショー、映像、音源など様々な資料を用いて説明する</p> <p>○実技：歌唱、器楽等の練習、演奏を行う。創作活動を行う。音楽を鑑賞し、特徴や曲想を感じ取る。</p>			
授業計画・内容 (一部変更はあり)			
1学期	2学期	3学期	
<p>○オリエンテーション</p> <p>○歌唱「西紀中学校校歌」 ・ We'll Find The Way</p> <p>○歌唱「心の歌」 浜辺の歌</p> <p>○鑑賞 ・「春」 ・魔王</p> <p>○器楽「箏」・ことはじめ・さくら</p> <p>○創作 ・リズムアンサンブルをつくろう</p>	<p>○歌唱 ・混声3部合唱曲 ・主人は冷たい土の中に ・「心の歌」 赤とんぼ</p> <p>○鑑賞 ・映画「ジョーズ」から ・雅楽 平調「越天楽」</p> <p>○器楽 リコーダー</p> <p>○創作 ・音のつながり方</p>	<p>○鑑賞 ・箏曲「六段の調べ」 ・日本の民謡 ・アジア諸民族の音楽</p> <p>○器楽 「箏」 創作しよう</p> <p>○歌唱 ・混声3部合唱曲</p> <p>○創作 ・音素材の特徴と構成</p>	
休業中	音楽をたくさん聴こう 学習課題はなし		
みなさんへのメッセージ	・音楽では読譜や演奏技能など表現するための基礎知識を学びます。また、どのように表現するかについて思いや意図をもって、音楽の良さや美しさを味わって聞いたりします。次の授業に向けて予習課題に取り組み、目標を持って授業に臨みましょう。		
評価方法 (それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する)			
自然事象への知識、実験技能	科学的思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
<p>・定期テスト (3回)</p> <p>・小テスト (不定期)</p> <p>・ワークシート・創作課題</p>	<p>・ワークシート・創作課題</p> <p>・プレゼンテーション課題</p> <p>・定期テスト (3回)</p>	<p>・授業での意見発表や態度</p> <p>・ワークシート・創作課題</p> <p>・定期テスト (3回)</p>	
授業・評価についての留意事項	授業では歌唱や器楽における演奏の基礎と実技、その他鑑賞、創作について学習する。定期テストや実技テスト以外に、授業の中で用いるワークシートを評価 (観点別) に加える。また、練習中の姿勢や技能表現等も評価に加える。実技や鑑賞等、その時間のみ実施のものも多いため、欠席者は授業者に必ず授業内容を確認すること。		
使用教材	中学生の音楽1、中学生の器楽 (教育芸術社)・ Joyful Songs (新学社) 音楽：表現と鑑賞の資料 (正進社)・ワークシート (授業で配布)		

授業科目名	美術	対象	1年生
担当教員	沖本 夏美	受講教室	美術室
週当たり時数	1. 3 (年間45時間)		
到達目標			
<p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫して表すことができるようになる。</p> <p>(2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようになる。</p> <p>(3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。</p>			
授業方法	講義、実技、鑑賞、グループワーク		
<p>○講義：授業者が板書、スライドショー、映像、実演など様々な資料を用いて説明する</p> <p>○実技：美術の表現及び鑑賞を行う。</p>			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1学期	2学期	3学期	
<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術とは何か？ <p>○見つめると見えてくるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明暗、光と影 ・身近なものをデッサンしよう <p>○色の基本・仕組み</p> <p>○文字っておもしろい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レタリングとは ・明朝体とゴシック体 	<p>○じっくり見ると見えてくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石の塑像 <p>○モダンテクニック</p> <p>○絵文字をつくってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵文字とは ・画面構成 <p>○鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屏風とは ・俵屋宗達と尾形光琳 	<p>○広がる模様の世界</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の伝統模様（鑑賞） ・模様づくり <p>○暮らしの中の木の工芸</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻について ・木彫スプーン 	
休業中	ポスター課題、美術に親しむ		
みなさんへのメッセージ	美術では、作品を作るための道具の使い方や表現方法について学びます。また、作品を鑑賞して作者の思いや意図を感じ取り、美術の良さや美しさを感じ取る活動を行います。美術に明確な「答え」はないので自由に自分の思いを表現しましょう。		
評価方法（すべて1/3ずつ評価し、最終的な評価を決定する）			
表現及び鑑賞の知識、実験技能	美術的思考力、表現力	主体的に学習に取り組む力	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（3回） ・作品、ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（3回） ・作品、ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（3回） ・作品、ワークシート ・授業での意見発表や態度 	
授業・評価についての留意事項	定期テスト、ワークシート、アイデアスケッチ、完成作品、授業態度(作品の期日を守る、積極的に取り組むなど)から総合的に判断する。		
使用教材	美術1（日本文教出版） 美術資料・兵庫県の美術（秀学社）、ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	保健体育科	対象	1年生
担当教員	足立 良輔	受講教室	運動場・体育館・プール・教室
週当たり時数	3（年間105時間）		
到達目標			
<p>(1) 運動の楽しさや喜びを味わうことができ、健康・安全についての学習を主体的に取り組んでいる。</p> <p>(2) 運動及び健康・安全について、理論的・科学的に理解し、運動の特性に応じた技能を習得している。</p> <p>(3) 運動及び健康・安全について、自他の課題を発見し、課題解決の方法を考え、実践することができる。</p>			
授業方法	実技、講義		
<p>○実技：誰もが安心・安全に取り組める方法で、目標に向けて練習を重ねる。</p> <p>○講義：授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する。</p>			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1学期	2学期	3学期	
<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に行うための方法 ・授業のルール <p>○跳び箱運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技を組み合わせて演技会 <p>○陸上競技（リレー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズなバトンパス <p>○プール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長く泳ぐ ・速く泳ぐ 	<p>○球技（バスケットボール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールをコントロールする ・簡易ゲーム <p>○球技（ソフトボール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な動作 ・簡易ゲーム <p>○球技（サッカー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な動作 ・簡易ゲーム 	<p>○ダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを、体を使って表現する。 <p>○剣道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な動作 <p>○陸上競技（長距離走）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法 ・全身持久力の向上 <p>（通年）○保健分野／体育理論</p>	
休業中	規則正しく生活する。		
みなさんへのメッセージ	保健体育は、体育実技だけではなく、保健分野も学習し、体のことや環境のこと、感染症のことなどを学習します。生涯にわたって健康な生活ができるように、一緒にがんばりましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識・技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（3回） ・小テスト（不定期） ・実験レポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験レポート ・授業での話し合い活動 ・定期テスト（3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での意見発表や態度 ・授業のノート記入 ・定期テスト（3回） 	
授業・評価についての留意事項	<p>実技教科のため、授業には積極的に参加しましょう。苦手意識がある人も多いと思いますが、他者と評価するのではなく、自分がどれだけ成長したかを評価します。</p> <p>また、定期的にワークの提出を求めます。これも評価（主体的に学習に取り組む力）に加えます。欠席者は授業者や友だちに授業の内容を確認するようにしましょう。</p>		
使用教材	<p>新版中学校保健体育（大日本図書）</p> <p>アクティブ中学体育実技（大日本図書）、 中学保体学習ノート（正進社）</p>		

授業科目名	技術	対象	1年生
担当教員	中岡禎雄	受講教室	技術室
週当たり時数	1時間（年間35時間）		
到達目標			
<p>(1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる技能を身に付ける。</p> <p>(2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し表現するなど課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>			
授業方法	講義、演習		
<p>○講義：：授業者が板書、実験、映像資料を用いて説明する</p> <p>○演習：材料と加工に関する技術と生物育成について実験と製作を通して、生活に係る基礎的な知識と技能を身に付ける</p>			
授業計画・内容（一部変更はあり）			
1学期	2学期	3学期	
<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の見方考え方 ・年間学習計画 <p>○材料と加工に関する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの視点と進め方 ・材料の特性 ・設計と製図 ・木材による製品の製作 	<p>○材料と加工に関する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金属の特性 ・金属の特性を利用した製品の製作 <p>○生物育成に関する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と生物育成 ・生物育成のサイクル ・栽培計画と栽培の実際 	<p>○生物育成に関する技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物栽培の課題解決 ・栽培技術の活かし方 <p>○1年間のまとめ</p>	
休業中	・自由研究または製作（夏季・冬季休業）→生活を工夫し創造する資質能力の育成		
みなさんへのメッセージ	自然科学とは何か？私たちの身の回りで起きる現象の理由を考えることです。中学校の間には4つの領域を1つの教科として学習します。それぞれの視点で得られた知見をもとに、自然現象について考えていきましょう。		
評価方法（それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する）			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（3回） ・製作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート ・栽培学習ワークシート ・製作品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートレート ・レポート ・学習発表 ・自由研究または製作 	
授業・評価についての留意事項	技術に関する原理・法則、基礎的な技術の仕組みを理解するための課題を設定し、課題解決に向けた製作活動（知識習得、構想、課題解決活動、まとめ）といった学習活動全般を通して評価を行う。		
使用教材	教科書、ノート（各自で用意）、ワークシート（授業で配布）		

授業科目名	家庭科B領域衣食住の生活(食生活)	対象	1、2年生(隔年)
担当教員	遠山久美子	受講教室	被服室・調理室・教室
週当たり時数	1時間(年間35時間)		
到達目標			
<p>(1)家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境について生活の自立に向けて理解し、技能を身につける。</p> <p>(2)生活の中から問題を見だし、これからの生活を展望して課題を解決する能力を養う。</p> <p>(3)自分と家族・家庭生活と地域との関わりを考え、家族とともによりよい生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>			
授業方法	講義、実習		
<p>○講義:授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する</p> <p>○実習:調理実習・実験(コロナ対応が解除された場合)・生活を豊かにするものの製作</p>			
授業計画・内容(一部変更はあり)			
1学期	2学期	3学期	
<p>1 食事の役割と食習慣</p> <p>2 中学生に必要な栄養を満たす食事</p> <p>中学生の発達と必要な栄養</p> <p>栄養素のはたらきと6つの基礎食品群</p> <p>献立ステップ1栄養バランスを目で見て判断</p> <p>・生活を豊かにするものの製作</p>	<p>4 日常食の調理</p> <p>調理の計画</p> <p>おいしさと調理(実験含む)</p> <p>①ますます好きになる肉の調理・(②実習)</p> <p>①こんなにおいしい魚の調理・(②実習)</p> <p>①好きになる野菜の調理・(②実習)</p> <p>5 地域の食文化</p> <p>6 献立づくり</p>	<p>3 さまざまな食品とその保存</p> <p>生鮮食品の選択と保存 食品が食卓にのぼるまで</p> <p>加工食品の選択</p> <p>食品の安全と情報</p>	
休業中	・家庭生活で仕事を手伝う。		
みなさんへのメッセージ	<p>食べて、着て、寝て、家族と暮らしていること、ふだんは当たり前すぎて、自分の家庭生活をふりかえることはあまりないかもしれません。日常生活でふれているからこそ、食事づくりを手伝ったり、家族のために食事をつくったり、ボタンをつけたり、ほころびをなおしてみることが実践力です。予習や復習は日々の生活であり、授業を通して深めていきましょう。</p>		
評価方法(それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する)			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト(3回)	<p>・製作物</p> <p>・課題レポート</p> <p>・定期テスト(3回)</p>	<p>・授業での意見発表や態度</p> <p>・授業のノート記入</p> <p>・定期テスト(3回)</p>	
授業・評価についての留意事項	ワークを提出する場合もある。これも評価(主体的に学習に取り組む力)に加える。欠席者は授業者に必ず授業の内容を確認すること。		
使用教材	教科書、家庭科総合ノート(明治図書) 兵庫県技術・家庭科ハンドブック		

授業科目名	家庭科B領域(衣生活・住生活)	対象	1.2年生(隔年)
担当教員	遠山久美子	受講教室	被服室・調理室・教室
週当たり時数	1時間(年間35時間)		
到達目標			
<p>(1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境について生活の自立に向けて理解し、技能を身につける。</p> <p>(2) 生活の中から問題を見だし、これからの生活を展望して課題を解決する能力を養う。</p> <p>(3) 自分と家族・家庭生活と地域との関わりを考え、家族とともによりよい生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。</p>			
授業方法	講義、実習		
<p>○講義: 授業者が板書、スライドショー、映像など様々な資料を用いて説明する</p> <p>○実習: 生活を豊かにするものの製作</p>			
授業計画・内容(一部変更はあり)			
1学期	2学期	3学期	
<p>1 目的に応じた衣服の選択</p> <p>衣服で伝わるメッセージ自分らしくコーディネート</p> <p>つなげよう和服の文化(着つけ)</p> <p>上手な衣服の選択</p> <p>2 日常着の手入れと保管</p> <p>まかせて衣服の手入れ</p> <p>布の繊維に応じた手入れ</p>	<p>めざそう洗たく名人</p> <p>補修や収納・保管</p> <p>3 生活を豊かに 実践するものの製作</p> <p>布による作品で生活を演出</p> <p>製作実習</p> <p>4 持続可能な衣生活</p>	<p>B 衣食住の生活[住生活]</p> <p>住まいのはたらき</p> <p>住まいの空間</p> <p>家庭内事故への備え</p> <p>災害への備え</p> <p>3 持続可能な住生活</p>	
休業中	・家庭生活で仕事を手伝う。		
みなさんへのメッセージ	<p>食べて、着て、寝て、家族と暮らしていること、成長している自分など、ふだんは当たり前すぎて、自分の家庭生活をふりかえることはあまりないかもしれません。知識や技能に正解はあっても、それを生活で自分がどう考え、使うのか、正解は自分が興味を向けて見つけていくことです。予習や復習は日々の生活であり、授業を通して深めていきましょう。</p>		
評価方法(それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する)			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む力	
・定期テスト(3回)	<p>・製作物</p> <p>・課題レポート</p> <p>・定期テスト(3回)</p>	<p>・授業での意見発表や態度</p> <p>・授業のノート記入</p> <p>・定期テスト(3回)</p>	
授業・評価についての留意事項	ワークを提出す場合もあり、これも評価(主体的に学習に取り組む力)に加える。欠席者は授業者に必ず授業の内容を確認すること。		
使用教材	教科書、家庭科総合ノート(明治図書) 兵庫県技術・家庭科ハンドブック		

授業科目名	英語	対象	1年生
担当教員	森田 恭弘 遠山久美子	受講教室	1 A 教室・学習室 B
週当たり時数	4 (年間140時間)		
到達目標			
<p>(1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>			
授業方法	講義、演習		
<p>○講義：授業者が板書、デジタル教科書、パワーポイント、映像など様々な資料を用いて説明する</p> <p>○演習：実際のスピーチを聞いたり、互いに英語で話し合ったりする</p>			
授業計画・内容 (一部変更はあり)			
1 学期	2 学期	3 学期	
Unit 0 Welcome to Junior High School アルファベットの名前と音、ローマ字 Unit 1 New School, New Friends Unit 2 Our New Teacher Grammar for Communication 1, 2 Unit 3 Club Activities Unit 4 Friends in New Zealand	Unit 5A Japanese Summer Festival Stage Activity 1 “All about Me” Poster Small Talk! 1 Unit 6A Speech about My Brother Let’s Talk 1 お願い 学び方コーナー③ Grammar for Communication 4 5 Unit 7 Foreign Artists in Japan Let’s Talk 2 体調 Let’s Listen 1 留学生のプロフィール Unit 8A Surprise Party Let’s Write 1 お祝い Unit 9 Think Globally, Act Locally Let’s Talk 3 道案内 Let’s Listen 2 欠席した友達への電話連絡 Stage Activity 2 My Hero	Let’s Read 1 Let’s Climb Mt. Fuji Unit 10 Winter Vacation Let’s Write 2 旅先からの便り Unit 11 This Year’s Memories Let’s Talk 4 レストラン Let’s Listen 3 ラジオ DJ のトーク Stage Activity 3 My Favorite Event This Year Grammar for Communication 7 Learning <i>LITERATURE</i> in English Let’s Read 2 City Lights	
休業中	・ワーク		
みなさんへのメッセージ	英語は教科である前に「言語」です。自分の思いや考え、事実を伝える手段の1つなのです。また、英語の教科では、「積み木」のように学習したことを積み重ねていくことが大事になってきます。アルファベットが書けると単語が書ける、単語が書けると文が書けるのです。		
評価方法 (それぞれを等価で評価し、最終的な評価を決定する)			
知識、技能	思考・判断・表現力	主体的に学習に取り組む力	
・単語テスト ・リスニングテスト ・定期テスト	・授業での音読、発表 ・インタビューテスト ・プレゼンテーション ・定期テスト	・発表 ・インタビューテスト ・提出物	
授業・評価についての留意事項	授業を一番大事にします！積極的に参加し、理解を深め、表現する力を伸ばそう。ペア練習&スピーキング練習&インタビュー活動に積極的に取り組もう！わからないことは、できるだけ早く解決するようにしよう。ALTの先生に積極的に話しかけ、コミュニケーション力を高めよう。		
使用教材	New Horizon 3 (東京書籍)、ノート、ファイル、ワーク		